

高木菜々 大会新 総合初V

全日本スケート

美帆準優勝、藤村5位

スピードスケートの第32回全日本選手権(日本スケート連盟主催)最終日は21日、明治北海道十勝オーバルで男女4種目を行い、女子は高木菜那(日本電産サンキヨー・帯南商高出)が4種目総合164・410の大会新記録、リンク新記録で初優勝した。高木は最終日の1500・5000m両種目で1位となるなど、4種目中3種目を制する強さを見せた。最終5000mで4位となった妹の美帆(日体大・帯南商高出)は、166・569で総合2位に食い込ん

だ。藤村祥子(宝来中央歯科)は最終5000mで2位となり総合は5位。十勝関係の男子

木澤那(日本電産サンキヨー・帯南商高出)が

広連盟が8位から浮上し、3位となったのが

最高。ウイリアムソン師円(日本電産サンキヨー)が平子裕基(当時白樺学園高)の日本記録

を14シグネスに破る153・163で初制覇したほか、二戸誠太郎(信州大)も同2位に入

た。高卒1年目の3人が表彰台を独占した。

(岡部彰広、折原徹也)



【女子5000m】種目3つ目の金メダルを手に喜ぶ高木菜那(中央)、左は2位の藤村祥子、右は3位の菊池彩花

菜那 妹に負けたくない

「帯広での大会だったし、親にも優勝を見せられてよかったです」。日本のオールラウンド新女王に輝いたのは、今季躍進中の高木菜那。155キロと小さな体ながら、笑顔とともに優勝杯を

手にした姿に賞賛を漂わせた。初日に公言した最終日の2種目制覇を有言実行した。1500mでは妹・美帆と同じ組滑走し、終盤



【女子5000m】最終種目も快勝、3種目制覇での総合初優勝を決めた高木菜那

競り合い好結果に

美帆 W杯後半戦で試す



【男子1万m】初日不調も最後の種目で2位と存在感を見せた小川拓朗。総合も3位に食い込んだ

小川男子総合3位

同期の存在刺激得意種目で奮闘

○・小川拓朗が、最も得意とする最終1万mで2位と奮闘。「前日がボロボロだったのできょくは吹っ切れた。最後の(1万m)まで残ると思わなかつたので、巻き返してよかつた

W杯最終戦から帰国して

すぐの大会だったこともあり、この日最初の1500mで滑りの感覚を取り戻し、1万につなげた。

優勝した二戸誠太郎(信

州大)の後半の速いラップで、勢いに燃えながら、今季日本記録を出したのが目標。あしたから次の課題を持つ練習に取り組みたい」と宣言した。

ドはどう出せるか試した

のが目標。あしたから次の

課題を持つ練習に取り組

みたい」と宣言した。

今季日本記録を出す

のが目標。あしたから次の

課題を持つ練習に取り組

みたい」と宣言した。

ドはどう出せるか試した

のが目標。あしたから次の

課題を持つ練習に取り組

みたい」と宣言した。

ドはどう出せるか試した